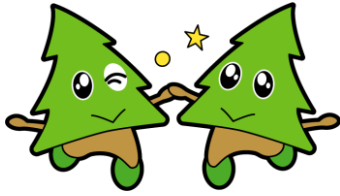


あきたスギッチファンド通信

No. 21 2015年8月5日発行



認定特定非営利活動法人

あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

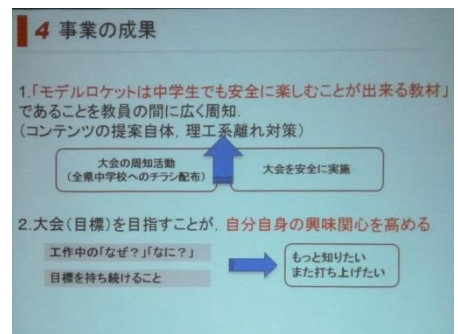
事業報告会 & NPO交流会

7月25日(土)13:00から、助成事業報告会を遊学舎で開催した。

今回の報告対象は、第10回(平成25年度第2回助成)、第11回(平成26年度第1回助成)の18の事業。各団体は活動内容や写真、成果などをパネルに掲示し、パネルの前の机には団体のパンフレットや成果物などを展示した。

はじめに、助成金を得て活発に活動をしている3団体が事例発表を15分ずつ行った。

第11回助成事業の中学生モデルロケット秋田県大会は実行委員会の齊藤亜由子さんから発表があった。子どもの理科離れを防ぐために、大学主催の講習会ののち、同実行委員会主催の中学生モデルロケット秋田県大会を行った。助成金は生徒を会場に運ぶシャトルバス代や消耗品費に充てた。42チーム106名が参加し、安全に心掛け、上位者は全国大会に参加したと報告された。



中学生モデルロケット大会の成果は?



米内沢駅の一角が憩いの場に

第11回の「ダイドーいのちを守る活動支援ファンド」助成を受けて「米内沢駅活性化事業」を行ったNPO法人ハッピーデリバリーの理事長佐藤信子さんによれば、この法人は買物代行サービス、日常生活支援サービス、外出支援サービスを主に行っている。また、家に籠りがちな人の居場所と地域の賑わいづくりの拠点づくりを考えていたところ、米内沢駅舎の一部を市から無償で借りることができた。助成金は花を植えたり備品購入に活用した。今年4月からは駅業務を受託し、年間を通じてカフェも営業することになったと報告があった。

次に第10回の助成事業「AKITAアマチュアDEナイツ実行委員会」の浅野学さんからは、「第5回AKITAアマチュアDEナイツ」についての報告があった。プロを発掘し全国で通用するパフォーマーを育成するためのコンテストを31の個人と8つの団体で開いた。今回の助成金は会場借上げ費や審査員の報償費とした。この大会から6名がグランド大会に進み、さらにそこから全国大会へと進んだ。その中の加藤こうすけさんがパフォーマンスを音楽とともに実際に披露し、会場は大いに盛りあがった。



AKITAアマチュアDEナイツの様子

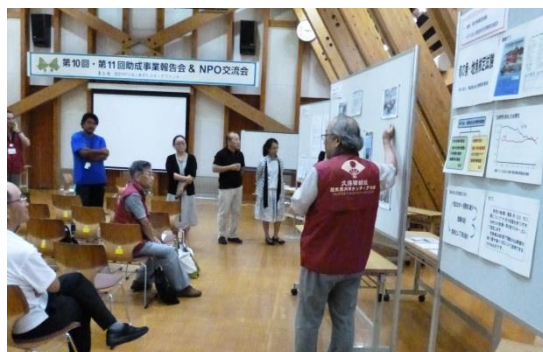
この後、休憩をはさんで他の助成団体（第10回助成事業8団体と第11回助成事業6団体）は、パネル展示の前で、各団体4分ずつの発表と2分程度のインタビューに応える形で報告を行った。

先の3団体も含め発表や掲示を行った団体はいずれも、それぞれが課題と捉える地域の問題に、独自のアプローチで解決に挑んでいる姿が印象的だった。スギッチファンドの助成金を大いに活用し、効果的な活動を行っているその姿勢を、寄付をくださった多くの方々にもご覧いただきたいと感じた。

残念なことに、助成金を得て活動をしたもののすでに解散している1団体は、発表にも掲示にも参加しなかった。願わくは今回の活動の経験を活かし、形は違えど地域の課題解決に何らかの形で今後も向かって欲しいと願っている。

その後のNPO交流会では、お互いにより具体的な質問を交わしたり名刺交換をしたりして、今後の活動のためにも良い繋がりができたようだった。

悪天候を心配し予定より30分ほど早く終了した。



第13回（2015年度第1回）助成先決定

第13回あきたスギッチファンドの募集は、5月13日から6月11日まで行われた。応募状況は下表の通りである。

ファンドの種類		募集件数	応募件数
本ファンド	10万円コース	4	6
	30万円コース	4	6
	50万円コース	2	4
三国こども震災支援	20万円コース	2	2
東日本大震災避難者支援	20万円コース	1	1


7月11日（土）、第13回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。

本ファンド10万円コースは審査員による書類審査と協議で、その他のコースはすべて書類審査と公開審査で決定することにした。

当日のプレゼンテーションは、30万円コースの中の1件が辞退、1件が失格のため、全コースで11件に上った。午前中に「三国こども震災支援ファンド」2件、「東日本大震災避難者支援ファンド」1件のプレゼンテーション、審査を行い、結果を発表した。午後から「本ファンド」8件のプレゼンテーションと審査・協議を行い、4時に結果を発表した。

本ファンド

10万円コース

団体名	事業名	事業内容
交通事故被害者の会サポート・ウインド (秋田市)	交通事故被害者相互の出会いとそれを支える人の交流を広める相互支援事業	不幸にも交通事故に巻き込まれた交通事故被害者・遺族に対して、被害者相互の出会いと交流および相互支援をひろげるために、情報提供、専門的なアドバイス、関係機関・団体への支援依頼などの事業を実施する。このことで被害回復、1日も早い社会復帰に繋げる。
NPO法人あきたけやき会 (秋田市)	コーヒーショップ「仲こまち」ふれあい事業 	平成17年に秋田市中通の明德館ビルにコーヒーショップ「仲こまち」を開店、障がい者とその家族が運営。障がい者が積極的に街に出ることで、障がい者への理解、一般市民との交流につなげることを目的としている。 しかし売上が低迷しており、それを打破するために、チラシなどを作成しPRするとともに、エプロンを新調するなどしてくつろげるコーヒー店の雰囲気づくりを図る。
秋田県在宅保健師等ゆずり葉の会 (秋田市)	「映像で見る秋田県の保健師の活動」DVD作成事業	保健師が地域に根ざし県民の健康を守るためには、技術の伝承と向上が重要。平成22年には過去から学び先輩からの教えや伝えたい活動等を掘り起し記録に残すことを主旨に「秋田県保健師活動の軌跡」を発行した。今回その続編として、活動を映像化し、DVDとして作成する。 DVDを保健師活動の啓発、技術の伝承、保健師の基礎教育などに活用していきたい。
びーらぶ秋田 (秋田市)	びーらぶプログラムの実施事業	暴力被害を受けた女性と子どものための心理教育プログラム“びーらぶ・プログラム”は、子育てをしているすべての母親と子どもに向けて伝えたい内容となっており、人権教育プログラムとしても効果を期待できる。そこで、保育所や母子生活支援施設でこのプログラムを実施する。ひとりひとりが大切な存在であることを実感して自尊感情を高めることにつなげていく。




公開審査会会場



審査委員長による審査講評と結果発表

30万円コース

団体名	事業名	事業内容
NAOのたまご (秋田市)	みんなで創るバリアフリーコンサート (第1回)	障害者とその家族の実態を知り、理解する機会、実際に障害者と健常者が会う機会などを多角的に設けることで、心のバリアフリーを一步進めて、障害者が健常者と共に社会の中で暮らしやすい秋田を目指して活動している。 今回は、障害児者とその家族、健常者とが同じ時間・空間を共有する場を創り、そこで参加者とのコラボレーションも企画して、みんなで創るバリアフリーコンサートを開催する。
NPO法人 かづのふるさと学舎 (鹿角市)	キノコ講習会 キノコの活用方法を探ろう 	鹿角は四方を山に囲まれており、そこに暮らす里人にとって山菜採りやキノコ採りは、ライフスタイルの一部になっている。今回10月に日本菌学会会員・理化学研究所研究員福島隆一氏を講師にキノコ講習会を開催する。これを広くキノコ文化を継承する人材、観光や商業に用いた地域活性化を図る人材の育成に繋げたい。
NPO法人 かじか瀬 (仙北市)	みんながプロフェッショナル事業	仙北市西木町地区は、70歳以上が4分の1を占めるが、多くのお年寄りが山菜料理、手工芸、踊りなどの技術を持っている。しかしそれを継承する機会が少ない。そこでこれらの人を講師に講習会を4回開催する。 この事業を実施することで、地域住民の交流が広がり、地域の活性化につながることを期待される。

50万円コース

団体名	事業名	事業内容
NPO住まい 安心サポート 秋田 (秋田市)	空き家の利活用・見守りサポート事業	独居高齢者や老人施設入所者と、離れて暮らす家族とのコミュニケーションを図る高齢者の安心住まいサポート、空き家、空き地所有者からの各種相談に対応する空き家の利活用・見守りサポートなど、住民主導による空き家対策に取り組み、「安心して楽しく暮らせるまちづくり」を目指す。
太平山ロック フェスティバル 実行委員会 (秋田市)	太平山ロックフェスティバル 2015	太平山スキー場オーパスゲレンデを会場に、特設ステージを作り、秋田県内で活躍しているアマチュアバンドを中心に、入場無料でロックコンサートを実施する。広い世代が楽しめるような、秋田を代表する音楽イベントにし、「秋田が楽しいところ」と思ってもらえるようにしたい。

三国こども震災支援ファンド

20万円コース

団体名	事業名	事業内容
地域応援活動 ～みんな元気 プロジェクト ～チーム (由利本荘市)	絵本がつなぐ子どもたちによる被災地支援「朗読コンサート」	ゆり養護学校で、地域在住の被災者や市民を招待して、東日本大震災で幼稚園バスの中で亡くなった佐藤愛梨ちゃんを主人公にした絵本を出版した絵本作家による「朗読コンサート」を実施する。このコンサートを通じて、地域住民と被災地を応援する気持ちを共有し、募金などの支援活動に取り組む。
つながる青空 市実行委員会 (秋田市)	第7回東日本復興支援チャリティイベント つながる青空市	東日本大震災で遺児、孤児になり里親に育てられている子どもたちへ思いを馳せ、支援することを目的にチャリティイベントを開催する。イベント内容は、防災について学ぶと共に、命の大切さについて再確認し、思いやりの心を育むものとなっている。また販売ブースも設置しその売上は義捐金として寄附する。

東日本大震災避難者支援ファンド

20万円コース

団体名	事業名	事業内容
NPO法人 あきたパートナーシップ (秋田市)	秋田で健やか支援事業	秋田在住の被災者、特に高齢者、交通弱者、小学生以下の子を持つ母子避難の方たちが、少しでも秋田で健やかに過ごして頂くことを目的に次の事業を実施する。 ①「おでかけ支援」 避難者の要望により、車で送迎をする。ひきこもりがちな方々に、気軽に外出して頂くと共に、これをきっかけに話し相手になることも期待される。 ②「親子でクッキング」 避難者同士、料理をしながら情報交換する場を創出する。



プレゼンテーションの様子

あきたスギッチファンド寄附者一覧（平成27年度4月～7月）

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

団体・企業等	株式会社あくら、株式会社福岡ドライクリーニング、株式会社伊藤園秋田支店、みちのくココ・コーラボトリング株式会社、サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、ダイドードリンコ株式会社、有限会社ワタ商事、メガネのアオヤギ、有限会社半田葬儀社、スーパーセンターアマノ男鹿店、ドジャース広面店、昭和化学工業(株)秋田工場、秋田椿台カントリークラブ、ナッティーババリアン、(有)進藤冷菓、中央菓工きた、ササキダチョウファーム、似顔絵とらまる、やまぶき、山の伊藤、(株)秋田銀行地域サポート部、NPO法人秋田県北NPO支援センター、NPO法人ITサポートあきた、NPO法人福祉理容美容協会ほわいと、医療法人慈心会、森田整形外科医院、
個人	児玉大平、土井敏秀、小林祐子、武藤馨、宮田寿美子、藤原勝耕、藤原睦子、富樫嘉津恵、菅原勝康、菅原拓男、三國節子、川村多恵子

秋田の未来、秋田の笑顔は
あきたスギッチファンド から

「あきたスギッチファンド」は、秋田を元気に、より豊かにするために活動する市民活動団体を資金面から応援するファンドです。あきたスギッチファンドが県民、企業、行政など社会全体から寄付や資金を集めて、NPO法人やボランティア団体、町内会等に活動資金を助成しています。

みんなの力で、活動団体を応援して、
住み良い秋田を作りましょう！

その資金の支援のためにご寄附をお願いします。